

イネ科通信 19

スズメノカタビラとイチゴツナギ属

2013/01/24



スズメノカタビ



花序と波をうつ葉身

スズメノカタビラは耕作地（田畑など）や道端あるいは公園などにも生えて可憐な姿をしていますが、その姿から想像できないほど繁殖は旺盛です。根は浅いが株をつくるので除草しにくく、耕作地の強害草として嫌われます。稈（茎）は束生、柔らかく高さ、5～25cm 位です。ただし、周囲に背の高い草などのため日陰になると背丈が大きくなり、また畑地などでは養分豊富なので大きく育ちます。また、刈取りが行われるところでは、逆に矮小な株ができます。このような場合、同定を間違えやすいので特徴を知ることが大切です。

スズメノカタビラの特徴

1. 葉の先はボート型で葉身は波をうつ
2. 葉舌は2～5mm でよく目立つ
3. 小穂は3～5 小花からなり、護穎は淡緑色で上部は紅紫色を帯びることが多い。

* 田中肇氏（『花と昆虫がつくる自然』などの著者）はスズメノカタビラの頂生小花は雌花で他の小花は両性花であることを観察されています。その他、ミゾイチゴツナギ、オオイチゴツナギの頂生小花は雌花です。

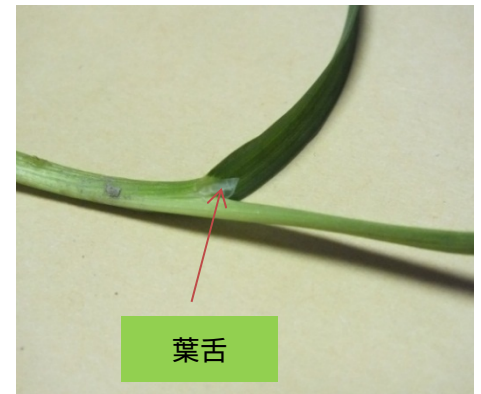
イチゴツナギ(Poa)属の特徴

1. 小穂は扁平、2～10 小花からなる
2. 穎の背は竜骨となる
3. 竜骨および基盤上には綴毛（綿毛のように縮れ、且つ、もつれた長毛）が生える。（右図：日本野生植物検索表より引用しました）

主なイチゴツナギ属

1 年草：スズメノカタビラ、ツクシスズメノカタビラ、オオイチゴツナギ、ミゾイチゴツナギ

多年草：オオスズメノカタビラ、ヌマイチゴツナギ、イチゴツナギ、コイチゴツナギ、ナガハグサ、イトイチゴツナギ



葉舌

